汽水域研究会
NEWS LETTER

汽水域研究会発行（本号編集責任者：作野裕司，sakuno@hiroshima-u.ac.jp）

年2回（４・10月）発行

第2号

2010年12月1日発行

目次:

1．シンポジウム報告　1

2．次回大会日程　1

3．研究会の英語名　2

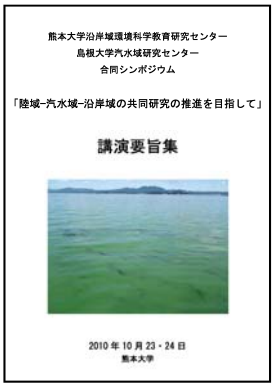
4．空から見た汽水域　3

5．イベント紹介　4

6．募集とお知らせ　4

１．汽水域研究会主催シンポジウム熊本で開催！

2010年10月24日に，熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター（以下，沿岸域センターと略す）・島根大学汽水域研究センター合同シンポジウム「陸域-汽水域-沿岸域の共同研究の推進を目指して」が，熊本大学工学部百周年記念館で開催され，約50人が参加した．大会は３つのテーマのシンポジウム，「1．陸域-汽水域-沿岸域における環境研究の現状と課題」，「２．中海の堤防開削における環境モニタリングとその問題点」，「３．水域環境の人為改変における新たな研究手法の展開」と，４つのテーマに分けられたポスターセッション「シンポジウム関連」，「環境変動系」，「生物生態系」，「保全再生系」から構成された．また，これに先立ち，10月23日には，熊本大学沿岸域センターの教員らの案内で「宇土半島」への見学旅行が行われた．このようなシンポジウム・見学会とも，熊本大学のスタッフを中心として，現地スタッフの多大なるご協力により，盛況のうち閉幕した．



２．汽水域研究会2011年大会・総会の日程決定！

汽水域研究会の2011年大会が，2011年1月8～9日の2日間，くにびきメッセ（島根県松江市）で開催されることに決定した．本大会は，昨年同様，「島根大学汽水域研究センター第18回新春恒例汽水域研究発表会」も同時開催となる．このうち，汽水域研究会の大会としては，汽水域研究会2011年総会と合同研究発表会が行われる．５つの常設セッション（１．環境変動系，２．生物・生態系，３．資源系，４．保全再生系，５．汽水域一般）と，公募によるスペシャルセッション1件，シンポジウム1件がそれぞれ開催される予定である．シンポジウムは「宍道湖で何がおきているのか？」をテーマで発表される予定である．なお，汽水域研究会2011年大会・総会についての詳細は，汽水域研究会のホームページをご参照いただきたい．

3．汽水域研究会の英語名決定！
「Japanese Association for Estuarine Science（JAES）」

ホームページとメールにより会員の皆様に汽水域研究会の英語名を募集したところ，様々な提案がありました：

(1) Japanese Association for Estuarine Science (JAES)
(2) Japanese Association for Brackish-water Science (JABS)
(3) Japanese Association for Coastal Lagoon Researchers (JACLR)
(4) Japanese Association of Estuarine Research
(5) Research Association for Brackish-water Zones (RABZ)
(6) Japanese Association of Brackish-water Research (JABRE)
(7) Research Association for Estuarine Sciences (RAES)
(8) Japanese Association of Estuary Research (JAER)
(9) Japanese Association for Estuarine Sciences and Engineering（募集締め切り後に寄せられた案）
(10) Japanese Association for Brackish Waters Science（募集締め切り後に寄せられた案）

事務局で英語を母国語とする専門家と相談し，上記2案（(1)と(2)）に絞って会員の皆様に投票していただいたところ，以下のような結果となりました．

(1) Japanese Association for Estuarine Science (JAES)　10票
(2) Japanese Association for Brackish-water Science (JABS)　7票
その他　2票

となり，運営委員会を経て(1)案が採用されました．また，投票とともにこれまた様々なご意見がありました：

・Estuary，では河川の有無に縛られそうな印象です．汽水，と言う意味で，地形に縛られないBrackish waterのほうがスッキリします．
・工学の分野では，Brackish waterというとSaline waterと同様に淡水化による水資源として考えられていて，・・・（略）．
・Brackish waterという名称を用いると，水域というよりも汽水という特異的な塩分濃度の水を意味するような印象を与える可能性がある．これに対して，Estuarineというと汽水域の水を含む生態系の全体を意味する印象がある．
・(1)案とすると，宍道湖・中海のようなCoastal Lagoonを含まずに，河川河口域のみを連想させる．
・汽水域研究会はScienceのみでEngineeringを含まないのは残念に感じます．
・Estuarineの語には，「河口・入り江-における」と言うニュアンスがあって，汽水域の重要な場の一つである「汽水湖」がイメージしにくいと思います．一方のBrackish-waterは，「汽水」そのものを表しており，「汽水域」に生起する多様な自然及び社会科学的研究という感じにならないと思います．
・Estuarine Scienceは「汽水学」あるいは「汽水の科学」で，その中には汽水に関わるあらゆる分野を包含すると言う意味でとらえています．もちろん工学分野も含みますし社会科学的な視点からの研究も必要です．それが「汽水域」というフィールドを対象とした学問の宿命的構図と思っています．
・私が最もしっくりくると考えるのは，McLusky(1989)の"An estuary is thus emphasised as a dynamic ecosystem having a free connection with the open sea through which sea water enters normally according to the twice-daily rhythm of the tides"です．イメージするほとんどの「汽水域」はこれに該当すると思います．

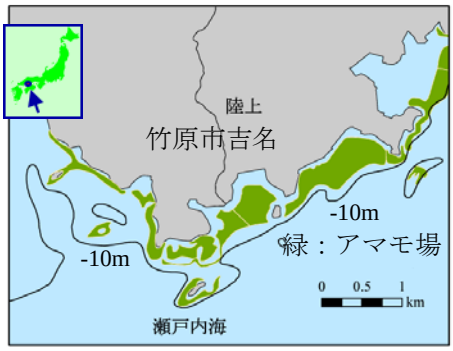
3．汽水域研究会の英語名決定！（2ページのつづき）

投票の結果は接戦で「Japanese Association for Estuarine Science」に決まりましたが，改めて，「汽水域」とは何か考える良い機会になりました．特に，estuarineの意味する内容，brackish waterの意味する内容は，人それぞれ，参考資料によってもいろいろで，本当に「汽水域」の中身は何か？難しいところです．逆に言えば，陸の海の境目，文字通りの境界領域が汽水域にあるということで，分野を越えた様々な人たちが集まる「汽水域研究会」の意味がここにあるのかな，と思いました．

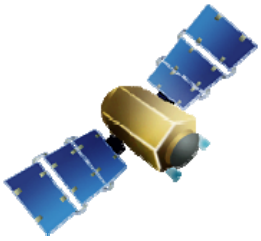
（島根大学，倉田健悟）

4．企画記事「第2回　空から見た汽水域ー瀬戸内海におけるアマモ場を気球カメラで計る」

(a) 調査地域



(b) 藻場撮影用気球



(c) 気球から撮影されたアマモ場

(d) 撮影画像を使った藻場分布推定図

広島大学では2006年度の環境省による大型助成をきっかけとして，広島県竹原市の吉名干潟（上の図(a)）において，カイツーンと呼ばれる飛行船型の気球（上の図(b)）に搭載したカメラで瀬戸内海の「アマモ」の観測を行っています．上の図(c)は実際に高度約120m付近から撮影されたアマモ場の画像です．黒っぽく映っているのが「アマモ」で，白っぽく映っているのが，砂または泥です．我々のグループでは，分光反射率特性に基づく画像処理によって上の図(d)のような藻場分布図の自動処理化を目指しています．

（広島大学，作野裕司）

事務局の連絡先
(平成21年11月1日～平成23年12月31日)
〒690-8504　島根県松江市西川津町1060
島根大学汽水域研究センター内

TEL 0852-32-6436
FAX 0852-32-6436
お問い合わせ先：
office.rgbwa@gmail.com

汽水域研究会のホームページ
http://pm75.soc.shimane-u.ac.jp/resgroup/index.html

汽水域研究会

関心のある方は
是非ご一報を！

5．汽水域関連イベント（2010年度10～3月）

(1) 鳥取大学サイエンスアカデミー

サイエンスアカデミーは，一般市民の皆様，とりわけ中学･高校の先生方，生徒のみなさん，ご家族を対象に，鳥取大学の教員が行っている研究や，今日問題となっている事柄，あるいは日頃疑問に思っていることなど中心に，自然科学，技術，環境，地域社会に関する今日的問題等について紹介しています．詳細はホームページ（http://www.tottori-u.ac.jp/dd.aspx?menuid=1177)をご覧ください．

（日本ミクニヤ株式会社，召古 裕士）

(2) 汽水域関連学会・シンポジウム

共同利用研究集会「2010年度古海洋シンポジウム」

会期：2011年1月6日（木）～7日（金）
会場：東京大学大気海洋研究所（千葉）
ＨＰ：http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/

第22回海洋工学シンポジウム

会期：2011年3月17日（木）～18日（金）
会場：日本大学駿河台キャンパス（東京）
ＨＰ：http://mefe.iis.u-tokyo.ac.jp/~oes22/

2011年度日本海洋学会春季大会

会期：2011年3月22日（金）～26日（月）
会場：東京大学柏キャンパス（千葉）
ＨＰ：http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/2010/10/2011.html

6．汽水域研究会からの募集とお知らせ

(1) Laguna (汽水域研究)の原稿募集

「Laguna (汽水域研究)」第17巻の原稿を募集します！ホームページに掲載されている投稿規程と執筆要領を参考に，投稿票とともに編集委員会まで原稿をお送り下さい．

投稿先：Laguna.editor@gmail.com　（島根大学，國井秀伸）

(2) 2010年会費納入のお願い

会員の方々には各会計年に会費を納入していただくことになっていますので，まだ納入されていない会員は会費の納入をお願いいたします．会費の振り込み用紙は既に発送済みですが，もしお手元にないようでしたら事務局までご連絡ください．　（島根大学，山口啓子）

(3) Laguna (汽水域研究)の表紙デザイン募集

「Laguna (汽水域研究)」の表紙のデザインを募集中です（2010年6月末締め切り→延長）．

(4) 2011年大会における総会

2011年大会における総会では，次期の会長，副会長，幹事の選出方法について検討する予定です．事務局で原案を作成しますが，もし会員から良いアイディアがありましたらお寄せください．

(5) 会員数（2010年11月30日現在）

正会員：56名，賛助会員：2名，学生会員：3名，計61名

(6) 研究会の入会方法

入会をご希望の方は申込用紙に記入の上，研究会事務局までメールかFAXでお申込み下さい．
汽水域研究会ホームページ：http://pm75.soc.shimane-u.ac.jp/resgroup/index.html

（島根大学，倉田健悟）

編集後記

載せるべき重要な記事が年末に集中して決定したため，ニュースレター2号の発行が大幅に遅れてしまい，大変申し訳ありません．ところで，先日「今年の漢字」は「暑」に決定！というニュースを見て，今年の猛暑をすっかり忘れている自分に気がつきました．猛暑のせいなのか，宍道湖のアオコ大発生など，汽水域でも異常な?現象が見られた1年でした．来年は，今年の猛暑の影響でまた異常な現象が見られるのか，通常の状態に戻るのか，興味深いところです．それではよいお年をお迎えください！　（広島大学，作野裕司）